

国際会議から

第8回個別要素法国際会議 (DEM8)

本会議の名称となっている「個別要素法 (以下, DEM)」とは, 1970年代に英国人のPeter A. Cundallによって提案されたコンピューターシミュレーション手法の一つです。よって本会議には, DEMのソフトウェア開発者, DEMシミュレーションを職業とする解析技術者, DEMを現象解明のツールとして用いるさまざまな分野の技術者や研究者などなど, 業種も業界も異なる参加者が一堂に会しました。

オーラル発表はTwente大学の講堂施設の4会場で5日間行われ, 発表件数は全200件を超えましたが, 日本人の発表は筆者を含めて9件のみで, 完全なるアウェイでした。

一方, 今回は新たな試みとして全19件の“Mini Symposia”が企画され, 筆者は, その一つの“MS11-DEM modeling in the field of railway track systems”で発表をしました。オーガナイザーは, グラーツ工科大学(オーストリア)のSix教授, また同セッションにはフランス国鉄のDr.Ferrellecも参加していました。

筆者の発表に対しては「日本のまくらぎの断面形状は,



河野昭子
鉄道力学研究部
軌道力学研究室
主任研究員

どのタイプも側面に段差があるのか」という想定外の質問があり, 筆者から「段差がないタイプもある。欧州はどうか?」と聞き返したところ, 前出のDr.Ferrellecから「たぶん, (段差は) なかったと思う。」という回答がありました。

今回は5日間の会期のうち2日間の参加となりましたが, DEMの本場の潮流は今や「オープンソース, オープンデータ」(ソフトウェアのプログラムソースや解析データを公開すること) のようで, 休憩時間にも, オープンデータには懐疑的な私の頭上で, オープンデータ推進派のソフトウェア開発者や大学研究者が熱く語り合っていました。



筆者の発表



会場となったTwente大学の
講堂施設「Waaier」

正式名称: 8th International Conference on
Discrete element Methods

開催国: オランダ(トゥウェンテ)

期間: 2019/7/21-26

主催: University of Twente

開催頻度: 3年に1回

次回開催予定: 未定

ホームページURL: <https://mercurylab.co.uk/dem8/>